

施設名称

国立成育医療研究センター

施設において移植可能な臓器



心臓



肝臓



腎臓



小腸

病院の特徴

- 移植担当医師 平田 康隆（心臓血管外科診療部長）
- 移植認定医数 10名（国立成育医療研究センターでの総数）
- 認定レシピエント移植コーディネーター 4名
- 移植実施施設としての特徴
 - ・ 成人心臓移植実施施設は現在11施設ある。内訳は、1997年認定の国立循環器病研究センター(以後、国循)、大阪大学医学部附属病院(以後、阪大)、東京女子医科大学病院(以後、女子医大)、2002年認定の東京大学医学部附属病院(以後、東大)、埼玉医科大学病院(現埼玉医大国際医療センター) (以後、埼玉国際)、2003年認定の東北大学病院(以後、東北大)、九州大学病院(以後、九大)、2010年認定の北海道大学病院、2016年認定の名古屋大学医学部附属病院、2018年認定の千葉大学医学部附属病院。2024年認定の愛媛大学医学部附属病院である。
 - ・ 2010年の臓器移植法の改正により小児心臓移植の道も開かれ、現在11歳未満の小児心臓移植実施施設は7施設ある。内訳は、2010年認定の国循、阪大、東大、2013年認定の女子医大、2019年認定の国立成育医療研究センター、2020年認定の九大、2023年認定の埼玉国際である。
 - ・ 心肺同時移植実施施設は現在3施設ある。内訳は、2002年認定の阪大、2011年認定の東北大、2022年認定の東大である。
 - ・ 南北に細長いわが国において、心臓移植実施施設の均霑化はなされており、各実施施設のレベル保持のために、移植実施施設に対する5年毎および実施施設責任者交代時には施設認定の再評価が行われ、基準を満たさない施設には実施施設継続中止が勧告されてきている。
(<https://www.hearttp.jp/shinzoshinpai01/index.html>)。
 - ・ 心臓移植後の成績は、日本全体で、移植後5、10、15年の生存率がそれぞれ92.9%、88.8%、79.7%と、国際心肺移植学会レジストリ(海外の成績)より良好である(<https://jshtx.or.jp/registry/>)。
 - ・ 各実施施設における待機者数、実施数は、移植実施施設の認定からの経過年数や地域性による事情が影響する。脳死臓器移植しかない心臓移植では、長期間待機のため装着される補助人工心臓のケアギバーによるサポートが必要なため、移植施設は、患者ばかりでなくケアギバー等の地域性、実効性を加味して選択される。そして、待機者数は新規患者登録により増加する一方で心臓移植実施や待機中死亡により減少するため、その数はその施設の実績を直接反映するものではない。また、心臓移植のレシピエントは治療等の状況、年齢、血液型および日本全体の待機患者の待機期間等によって選択されるため、各実施施設における待機者数の多寡と移植までの待機期間に関係はない。

待機患者数

(2024年12月31日現在)

3人

(いずれも小児)

死体移植実施数（過去3年間）

(2022年1月1日～2024年12月31日)

3人

0件 (2022年)

2件 (2023年)

1件 (2024年)

お問い合わせ先

国立成育医療研究センター循環器科

(担当) 浦田 晋

電話：03-3416-0181

診療科HP：

<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/special/about.html>